

Zoo Zoom おびひろ

☆クイズ☆

下の動物はどこで暮らしているかな？

ホッキョクグマ

アカカンガルー

ペニロフラミンゴ



③北極圏

②アムール川周辺

⑤カリブ海沿岸

④オーストラリア

答えは「ちびっこふぁーむ」に掲示しています

おびひろ動物園情報誌『Zoo Zoom おびひろ』2019年秋号
発行日：2019年9月1日
編集・発行：おびひろ動物園 〒080-0846 帯広市字緑ヶ丘2番地
TEL：0155-24-2437 E-mail：zoo@city.obihiro.hokkaido.jp
ホームページ：https://www.city.obihiro.hokkaido.jp/zoo/
ブログ：https://ameblo.jp/obihirozoo
Twitter：@obihirozoo

ブログ携帯版
はコチラから



なつき
クジャクバト 『夏樹』(0歳、性別不明)

6月4日に産卵し、6月22日に孵化しました。写真は孵化後28日目のもので、体格は成鳥と変わらないくらい大きくなりましたが、まだ親にえさをねだり、ヒナらしくピーピー鳴いています。



草食動物 = 安全 ⇒ ではない!

愛しているからこそ距離感

知っていましたか?

動物園の草食動物は、家畜と飼育下の野生動物の2種類に分けられます。人間のために姿や性格を改良されてきた家畜は、比較的安全に直接触れ合うことができます。しかし飼育下であっても野生動物は家畜と違い、自然界での野生の性質を色濃く残しているため、気軽に近付くことはできません。野生動物と人間とで、どういった距離感が必要でしょうか。

野生動物への接触は危険

安全に飼育するために、ゾウ・キリン・バイソンなど大型の草食動物は、直接同じ空間に入って触れたりエサを与えたりすることはできません。中型草食獣であるカンガルーやシカは、飼育員が直接同じ空間に入って作業を行うことがあります。しかし、びっくりすると突然走り出すこともあり、ぶつかってケガをする危険性は十分にあります。そのため飼育員は動物たちを驚かせないように、細心の注意を払って作業を行っています。

インドゾウ: ナナのフットケアの様子です。思わぬ接触が大事故に繋がりがねないので細心の注意を払って作業します。この他に、鼻にエサを手渡しする、ホースで水を飲ませる・水浴びなどのコミュニケーションも行います。

距離を置いた付き合い方

一部の草食動物には健康管理のため、動物に特定の行動をさせる訓練(ハズバンドリートレーニング)の時に手渡しで給餌をすることもあります。普段の給餌は置き餌です。また、必要以上に触れたり近付くことはありません。近付くことが必要な場合には安全な位置で適切な距離を保ち、目を離さず行動を予測しながら行います。仲が良さそうに見えても決して飼育員はペットのような感覚で接していません。互いに危険がないように一線を引いて飼育をしています。

アカカンガルー: 普段は四つ足で歩きますが驚くと立ち上がり、組み付いて蹴ってくる場合があります。カンガルーの蹴りは非常に強力な危険なので近寄る時は十分に注意します。

エゾシカ: 繁殖期はオス同士の角をぶつけあうケンカが激しく、普段なれている飼育員でも危険を感じるほどです。動物園では安全のために毎年秋に角を切っています。

アミメキリン: メープルのトレーニングの様子です。ネックリング(首での攻撃)や動物の動きに注意しながら集中して行っています。